

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第二岩倉一期一会荘	階数	地上 3F
建設地	岩倉市	構造	RC造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	140 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2014年9月1日
敷地面積	4,854.13 m <sup>2</sup>	作成者	(株)三橋設計
建築面積	1,752.27 m <sup>2</sup>	確認日	2014年9月5日
延床面積	4,305.34 m <sup>2</sup>	確認者	(株)三橋設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>30.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	30.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	30.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
  - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
  - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
  - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
  - Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
  - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.1</b>
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				(共)D数加重平均=45.19 (宿)D数加重平均=43.81				
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.1</b>
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・遠従制御性								
3 外皮性能				外皮面積加重平均より、(共)4.0、(宿)4.37				
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.7</b>
3.1 昼光利用								
1 昼光率				(共)昼光率加重平均=1.5、(宿)昼光率=3.5				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御				(宿)庇+カーテンによりグレアを制御する				
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気環境</b>								<b>4.1</b>
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				ほぼ全面的にF☆☆☆☆採用				
2 アスベスト対策								
3 タニカヒ等								
4 レンゾネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量				(共)基準法に基づく換気量の1.4倍以上				
2 自然換気性能				(宿)自然換気有効開口面積が床面積の1/15以上				
3 取り入れ外気への配慮								
4 結露計算								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御				全館禁煙				
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>								<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				最小居室床面積12.30㎡ ≥ 10㎡				
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震								
1 耐震性				基準法の25%増し以上の耐震性				
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				換気ダクト一般:亜鉛鉄板 多湿箇所:SUS製				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用している。E不使用				
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性				3.4	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備		②	非常用発電機+浸水の恐れなし	4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備			通信手段の多様化+浸水の恐れなし	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.3	0.29	2.7	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	2.4	0.50	
1 階高のゆとり			(共)3.7m≤基準階階高:3.7m<3.9m	4.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			(共)0.1≤壁長さ比率=0.24<0.3 (宿)0.3≤壁長さ比率=0.40<	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			IBPAL低減率=33%	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			LED照明、高効率エアコンの採用	4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価				3.9				
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ+省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		②	-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		再生クラッシュラン(路盤材)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		解体時に分別しやすいボード下地構成	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ノンフロン発泡断熱材の採用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率=82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			駐車・駐輪場、導入路配慮	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	●			3.0	1.00	-	-	
2 振動	●			-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
 重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 省エネルギーや耐久性を考慮して、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和に努めている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性能の高い外壁材の使用、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に努めている。化学汚染物質にも配慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 耐用年数の永い配管配線材料を採用し、ライフラインである水・電気・通信などの防災対策に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率エアコン、LED照明の採用で設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水器具や省水型機器を採用し、水資源の保護に努めている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO2を削減し、地球温暖化防止を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。